



- 1 「ピーワンダー！」の掛け声でB-1グランプリがスタート
- 2 自慢のご当地グルメを提供する団体の皆さん
- 3 趣向を凝らしてわが街をPRしました
- 4 十和田西高生が元気よく「ラビアンローズ！（バラ色の人生を）」
- 5 高々と金の箸を掲げる浪江焼麺太国の八島太王（写真中央）

Interview 参加団体に十和田の印象を聞きました



隊長・川又 勝浩さん

学生などいろいろな人を巻き込んでいて、本当のまちおこしの姿を見ました。十和田の皆さんのあたたかさを感じました。

ゲスト団体・山梨県甲府市 甲府鳥もつ煮でみなさまの縁をとりもつ隊



投票結果
 ■ゴールドグランプリ
 浪江焼麺太国 (福島県浪江町)
 ■シルバーグランプリ
 横手やきそばサンライ's (秋田県横手市)
 ■ブロンズグランプリ
 久慈まめぶ部屋 (岩手県久慈市)

十和田スタイルのおもてなしが光った
 ボランティアスタッフ約 1,000 人が活躍

Interview



市民ボランティアスタッフ 門 武宏さん (22 歳)

こんなにたくさんのかたが十和田を訪れてくれてうれしいです。大好きな十和田のためのイベントにかかわることができてよかったです。この盛り上がりが続いてくれればいいですね。

大会運営に当たって、市民、市内高校生や企業など約 1,000 人のボランティアスタッフが参加し、会場内のゴミの回収、駐車場誘導や案内係などに活躍しました。中でも、十和田西高校からは 162 人の生徒が参加。各出展団体の補助に回り、団体と一緒にまちのPR活動に励みました。また、十和田バラ焼きゼミナールのブースでは接客から調理までほとんどを十和田西高生が担当。木村長敏学長は「頼もしくて、高校生にすべて任せられます」と、話していました。



▲会場内のごみ集めを行った「ゴミいただき隊」の皆さん



人！人！人！
 大行列！大賑わい！



9/7・8 十和田市民もびっくり！
 2日間で18万1千人！
 大盛況！北海道・東北B-1グランプリ in 十和田

9月7、8日の2日間にかけて、ご当地グルメでまちおこしイベント「北海道・東北B-1グランプリ in 十和田」が市中心街で開催され、18万1千人が訪れました。

十和田バラ焼きゼミナール（以下バラゼミ）やゲスト団体の甲府鳥もつ煮でみなさまの縁をとりもつ隊など21団体が出展。官庁街通りと商店街の2会場に分かれ、ご当地グルメを提供し、わが街のPRパフォーマンスを行いました。各団体には、開始時間の午前10時から行列ができ、完売が相次ぎました。期間中は、たくさんの方で溢れかえり、街中は賑わいでした。

閉会式は相撲場で行われ、来場者の箸の投票により、福島県浪江町の浪江焼麺太国がゴールドグランプリを獲得しました。浪江焼麺太国の八島貞之太王は「震災により、帰りたいけれども帰れない人がいる。全国で離れ離れになっている仲間を、なげいていきたい」と、力強く語りました。最後は、参加者全員でトリオ☆ザ☆ポロンチョスのB-1グランプリのテーマソングに合わせて歌い、一体となって幕を閉じました。